

平成25年7月24日

報道関係者 各位

平成24年島原市観光客動態調査について

標記の件について、平成24年島原市観光客動態調査を調製しましたので、配布いたします。

概要につきましては、添付資料を参照ください。

記

- 1 島原市観光客動態調査 平成24年（1月～12月）



有明海にひらく湧水あふれる
火山と歴史の田園都市 島原

担当：観光・ジオパークグループ
観光・ジオパーク推進班 平尾・板山
電話：0957-63-1111（内線 212）
E-mail：kanko@city.shimabara.lg.jp

平成24年の観光動向について

平成24年中における島原市の観光客数は、前年と比較し観光入の込客数は増加に転じたが、宿泊客数は微減となった。

【観光客・宿泊客数】

区 分		平成24年(人)	平成23年(人)	前年比(人)	伸び率(%)
観光入込客数		1,297,520	1,267,715	29,805	2.4
宿泊客数		186,133	187,943	△ 1,810	△ 1.0
島原城	入場者数	212,359	213,281	△ 922	△ 0.4
	入館者数	115,499	118,608	△ 3,109	△ 2.6
外国人宿泊客数		6,035	5,885	150	2.5
修学旅行宿泊客数		7,140	5,099	2,041	40.0
大会・会議等による宿泊者数 (助成金申請分のみ)		15,501	19,278	△ 3,777	△ 19.6

本市における平成24年中の観光入込客数は、前年比29,805人(2.4%)の増となったが、宿泊客数については1,810人(1.0%)の微減となった。ただし、宿泊客数については減少傾向が続いているものの減少幅は縮小し、回復の兆しが見られる。

また、閉館した主要ホテルを除く宿泊施設の宿泊者数については、前年比8,263人(4.7%)と増加した。これらの要因としては、次のような点が挙げられる。

1. 平成24年における観光客の動向に影響を及ぼしたと考えられる要素

《マイナス要因》

- 主要ホテルの閉館(新規ホテルの開館は12月)
- 長引く景気低迷(デフレ)と円高
- 観光シーズンにおける週末や連休時の悪天候

《プラス要因》

- 東日本大震災やそれに伴う福島第一原発事故発生による自粛ムードの緩和
- 大規模大会の開催(ジオパーク国際ユネスコ会議、全国和牛能力共進会)
- シャトルライナー「シーガル」の運行による、九州新幹線利用客等の誘客
- 緊急雇用対策事業等を活用した各種観光振興施策の実施(無料シャトルバス、かんざらし・ろくべえ調理体験、人力車・小舟体験、宿配サービス等)
- 修学旅行宿泊者の増

このような状況を考慮し、今後取り組むべき観光振興対策としては次のようなものが挙げられる。

2. 今後の観光振興対策について

- 熊本市等との横軸連携による九州新幹線利用客の誘客対策の強化
- コンベンション、スポーツ合宿などの誘致促進(フットボールセンター、体育館・弓道場の周知、PR)
- 本市特有の財産(島原城、武家屋敷、松平七万石の歴史など)を活用した城下町観光、並びに温泉・湧水を活用した観光の推進(緊急雇用事業等の活用)
- 福岡都市圏や関西圏からの誘客強化【広告媒体(新聞・雑誌等)の活用や、誘致活動の強化】
- ウェブを活用した島原の魅力の発信(フェイスブックやブログ、ツイッターなどの活用)
- 島原半島ジオパークを柱とした広域観光の推進(ジオパーク推進連絡協議会・半島観光連盟の連携強化(GAMADASUプロジェクト推進事業等))
- 季節を彩る花の名所づくり(芝桜公園の維持管理、PR等)
- 「長崎がんばらんば国体」プレイベントや長崎しおかぜ総文祭の連携